

サギソウ 北山湿地に自生

岡崎高生ら 環境調査で発見

岡崎市池金町の北山湿地で、絶滅したと思われたサギソウの花を岡崎高校（明大寺町）の生徒らが見つけた。湿地の再生を目的に、環境調査を進めていたさなかの発見に、生徒たちは「貴重な花が見つかるような湿地だと知って、よりやる気が出た」と喜ぶ。

（杉山果奈美）

生徒八人は本年度から市二十本ほど咲いていた。二と始めた「湿地再生プロジェクト」の一環で、八月二十日に北山湿地を訪れた。目的地向かう途中でママシがいたため、回り道をして、童心に返ったような純粋な先に、白くて小さな花が



北山湿地で見つかったサギソウ。岡崎市池金町の北山湿地で

県の絶滅危惧種 再生へ向けて価値高まる

振り返る。

同行していた愛知教育大、渡辺幹男教授（植物分類学）が後日、遺伝子解析をして、野生の花であることを確認した。渡辺教授は「野生のサギソウは、自然が残っている場所にしか生えない。今回の発見で、北山湿地の価値がより高まった」と説明する。

一年上田佳穂さん（もは「見つけた場所は、湿地の中でも状態の良い場所だった。荒れている場所もある。そこにも他の生物が戻ってくるようにしたい」と話した。

市環境政策課によると、二〇〇五年の市動植物調査会の報告書で「四十年ほど前までサギソウの開花が見られたが、（湿地が）森林化してしまい、今は見られない」との記載があり、北山湿地では絶滅したと思われていた。

サギソウはラン科の多年草で、夏にシラサギが羽を広げたような白い花を付ける。園芸用として人気が高まったことによる乱獲や、湿地の減少で数が減っており、県の絶滅危惧種にも指定されている。